



みんなで探して発見！ 身近な自然

めぐろいきもの气象台
Tel: 03-5722-9359
Fax: 03-3792-2112
〒153-8573 目黒区上目黒2-19-15
目黒区みどりと公園課みどりの係

みんなの発見！ 2017年～2018年冬

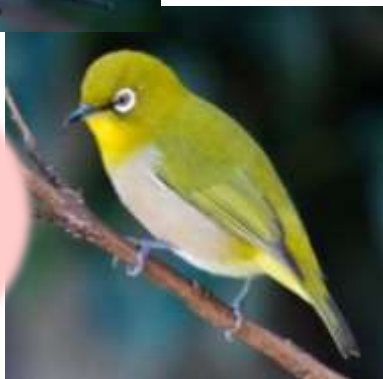


『屋根の上の アオサギ』

(12月15日)
隣家の屋根に止まっていた。池の庭にいる金魚がすべてサギ君の餌になったようです
(中根2丁目自然通信員)



庭のお客様
左上：シジュウカラ
(11月29日)
右下：メジロ
(11月19日)
自宅庭にて
(南1丁目自然通信員)



こんなところに
ミズカマキリ
(12月25日)
車のボンネットで見つけた死骸。
周辺の木から落ち葉と一緒に落ちたのでしょうか
(大岡山2丁目自然通信員)



じっと魚とり？
ゴイサギ
(2月12日)
碑文谷公園で見かけました
(碑文谷6丁目自然通信員)



冬でも見られるガ フクラスズメ (1月21日)

放置されたタオルの上に静止。越冬中の吸水でしょうか
(中目黒4丁目自然通信員)

海を渡って飛んできた ツグミ

(11月30日)
今シーズン初めて目にしました
(緑が丘2丁目自然通信員)



近づかないで、と ハラビロカマキリ

(12月7日)
南一丁目の桜の木で威嚇されました
(自然通信員)



お花見に行きましょう♪ めぐろの桜

区内では、ソメイヨシノをはじめ、春にはカワツザクラ、陽光、関山と日を重ねるごとに異なる種類の桜が次々と開花し、その様子を楽しむことができます。



左は陽光(花期：3月下旬)。右は鬱金(うこん)(花期：4月中旬)。鬱金は緑色の花が咲く桜です。

みどりの散歩道コースガイドを持って、桜の美しい目黒の街を散歩してみませんか。
目黒区総合庁舎区政情報コーナー、駒場野公園自然観察舎、中目黒公園花とみどりの学習館、目黒区書店商業組合加盟の書店9店舗などで販売しています。

(販価：1セット9コース300円)





みんなですすめる 生物多様性ゆたかなまちづくり



学校ビオトープ

区内の自然を回復していくために、児童や学校と区と一緒に作業を行っている区立小学校にあるビオトープ。ビオトープとは、“いきものの居場所”のことです。ビオトープには水辺や草地などの多様な環境を求めてたくさんのいきものがやってきます。鷹番小学校のみなさんとビオトープの環境管理を行いました。

水草の除去作業

トンボが水面を見つけれられるように、水草を除去し水面が7割以上見えるようにしました。外来種のスイレンは全て除去し、多様な水草が生育する環境の維持するために抜いた水草についた土は岸の斜面に戻しました。



ビオトープ活動を紹介する看板が設置してありました！都会の中のいきもののオアシスであるビオトープをみんなで守り育てていきましょう♪



びっくりしたことは、ヤゴが思った以上にたくさんいたことです。いろんな生きものと出会えたのしかったです

いきもの発見！

ヤゴ、タニシ、ギンヤンマ類、シオカラトンボなどいきものを発見しました！



ヤゴ



タニシ



いきものと共生するまちづくり

活動に参加したみなさんの一言

水草を池に入っってぬくのが楽しかったです。たくさんの虫を見ることができて、とてもうれしかったです。これからも緑をふやせるようにビオトープをきれいにしていきたいです

ビオトープにはどんどん生き物がふえているのだと感じた。今日学習したことをみんなに伝えてしっかりと広めていきたい



タケノコ復活プロジェクト

昔からの竹林が残るすすめのお宿緑地公園。大岡山小学校の6年生のみなさんとタケノコ掘りを体験しました。このタケノコ掘り体験は、平成26年度より大岡山小学校の児童が『総合的な学習の時間』の学習として継続して取り組んでいる『目黒のタケノコ復活プロジェクト』の一環です。



掘り出したタケノコ

タケノコみつけたよ！

リーダーが「掘り進めると赤い茎が見えるので、そこから掘り返します」とポイントを説明してからタケノコ掘りが始まりました。みんなで育ちすぎているタケノコを探し、スコップなどで周りを掘り進め、最後はクワを使って掘り出しました。

「目黒のタケノコ」

目黒のタケノコ栽培の最盛期は大正時代で、目黒式といわれる独特の栽培方法によるものでした。目黒式とは、地下茎を掘り起こして深く掘った溝に埋め戻し施肥などを施す方法で、目黒の土質にあっているそうです。

竹林は地下茎で結ばれた“ひとつのいきもの”です。そして竹林は、土の中にいるいきものたちによって支えられています。自分たちが育つ地域の自然や文化を知り親しむことは、いきものに配慮したまちづくりをすすめるきっかけになります。

地域の自然と文化に親しむまちづくり

参加者募集！グリーンクラブ

自分たちの手で、自分たちの街を美しくしてみませんか
花壇はチョウやミツバチたちのレストランにもなっています
～グリーンクラブとは～

地域住民の皆様が公園や緑道などの花壇を手入れする登録制のボランティア団体です。



ミツバチ



ツマキチョウ



キチョウ



モンシロチョウ



祐天寺駅前ロータリーでの上目黒住区グリーンクラブの活動の様子



花とみどりのまちづくり

グリーンクラブへの登録をご希望される方へ
地域住民3世帯以上で一つのグループを作り、みどりと公園課の管理する公園等の場所を区に申請していただきます。登録されたグリーンクラブには、年3回花苗を配布します。詳細はみどりと公園課利用係（☎5722-9242）にお問い合わせください。

みどりの活動紹介～楽しい公園施設にお出かけください

駒場野公園自然観察舎と中目黒公園花とみどりの学習館から春の公園を紹介するコラムが届きました！

『公園の大切な仲間』－駒場野公園－

駒場野公園には、明治 11 年に開校した駒場農学校の名残として、“ケルネル田んぼ”が現存します。毎年初春になると田んぼの水たまりにヒキガエルが産卵し、田植え前の 5 月頃までオタマジャクシを観察することができます。

しかしここ数年、駒場野公園のオタマジャクシは減少の一途をたどっています。このままではこの公園のヒキガエルは絶滅する可能性があります。自然観察舎ではヒキガエルの保全活動を行っており、50 年後 100 年後もヒキガエルが住める環境を維持したいと思っています。(昨年ヒキガエルの生息調査“緊急ガマ調査”を行いました。詳しくは自然通信員だより 60 号・61 号で)

(駒場野公園自然観察舎 問電話 03-3485-1754)



『春のお花見』－中目黒公園－

モモは古くから中国で親しまれてきた植物で、日本では弥生時代より栽培されてきたと言われています。「古事記」にも登場することから、古くから馴染みがあったことをうかがい知ることができます。ハナモモは園芸品種で、花を觀賞するために改良されました。日本では江戸時代から盛んになったようです。

中目黒公園では桃色、白、赤白混合など様々な花の色のハナモモを楽しむことができます。同じ時期から咲き始めるサクラも魅力的ですがハナモモでお花見もいかがでしょうか。

(中目黒公園花とみどりの学習館 問電話 03-5721-0871)



＼はじめまして！めぐろ／



はじめまして！

2018 年 1 月 23 日 目黒川船入場のオカヨシガモ(オス)

寒かった冬、目黒川の船入場には例年よりも多くのカモたちが冬越しをしていました。中には、目黒区で初めて見つかったオカヨシガモの姿も。このカモは、冬にみられるほかの種類のカモと同様、夏にシベリアなどの北国で子育てを行い、秋冬に暖かい地方に渡ってきますが、数は少ない種類です。

目黒川船入場(中目黒 1-11)は、アシの生える島や浅瀬などがあり、東京湾からハゼやアユなどの魚たちがさかのぼってきます。カモ類やサギ類、カワセミやセキレイ類など、一年を通して様々な野鳥たちも多く、目黒区では貴重な生物多様性ゆたかな水辺です。

お花見がてら目黒川を訪ねて、ちょっと「川の中」をのぞき込んでください。

「はじめまして！」という声がかかるカモかもしれませんよ！

目黒区いきもの住民台帳『土をめぐる生物』を作成しました

『目黒区いきもの住民台帳』は自然通信員や、区などの行った専門調査の結果を、目黒区に生息・生育する生物の種名リストとして集計したもので、2009 年におよそ 3000 種類の動植物や菌類を掲載した暫定版を公開しています。今回は、すべての生物の生存基盤である『土』をめぐる生物として、キノコ(駒場で 23 年間の観察記録)や土壌生物について紹介するものです。(A4 版 40 ページ)

4 月 13 日(金)から目黒区総合庁舎 1 階区政情報コーナーにて 1 冊 300 円で販売します。また、『定点観測員』にご登録いただいている方の中でご希望の方にはお配りします。『住民台帳希望』とお書きのうえいきもの情報と一緒に、下記のあて先までお送りください。(冊数に限りがありますことをご了承ください)

区立図書館や目黒区ホームページでも内容をご覧いただけます。



(表紙と内容の見本)

郵便・FAX・メールのあて先

〒153-8573 《住所不要》 都市整備部みどりと公園課みどりの係 FAX 03-3792-2112 E_mail sizen@city.meguro.tokyo.jp

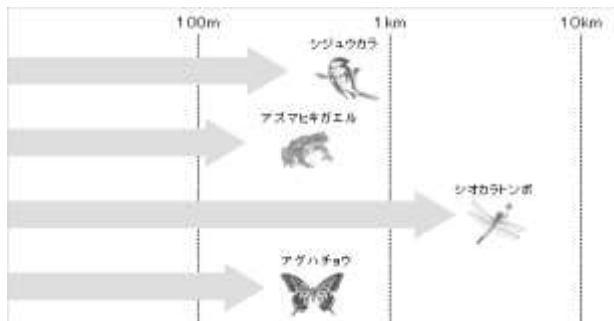
歩もう 野の鳥の歌が聞えるまち 計画紹介その8

身近な自然を守り、いきものたちと共に暮らせるまちを未来に伝えていくため 2014 年 3 月から推進している『ささえあう^{いのち}生命の輪^わ 野鳥のすめるまちづくり計画(目黒区生物多様性地域戦略)』のポイントを紹介いたします。

●「いきものの道」の取り組み

都市の中にいきものたちのすめる場所を創出していくためには、地域の核となる緑地の保全を図るとともに、散在する緑地を緑道や街路樹などでつなぎ、いきものがすみ、移動できる緑地を効果的に配置することが重要です。このような緑地のネットワークを「エコロジカルネットワーク」といいます。目黒区生物多様性地域戦略では、「いきものの道」をエコロジカルネットワークの構成要素の1つとして設定しています。

「いきものの道」とは、街にある樹林や「いきものの庭」をつなぎ、さまざまないきものの移動空間となる線上の緑地で、河川、崖線(がいせん)の樹林、緑道、街路樹や道路植栽帯、生け垣、屋上緑化などです。「いきものの道」を設定し、整備、活用することで、樹木や草本等が生育できる舗装されていない地表面、または水面等を連続させることにより、飛翔性や歩行性、遊泳性のいきものが移動できる経路を確保します。



図：都市域のエコロジカルネットワーク計画における動物の移動距離
シジュウカラ、アズマヒキガエル(繁殖期)、シオカラトンボは「移動分散の直線距離」の平均値、アゲハチョウは最大値
徳江義宏・大澤啓志・今村史子(2011(平成23)年)都市域のエコロジカルネットワーク計画における動物の移動分散の距離に関する考察,J. Jpn. Soc. Reveget. Tec. 37(1), 203-206 より作成



図：いきものの移動距離から見た西部地区の公園緑地の配置検討の試み(区の鳥シジュウカラの例)
シジュウカラの移動距離は約 500m と推定されており、現状の公園等を中心として半径 250m の円を描いています。円が重なっている箇所はシジュウカラの公園間の移動の可能性が高いエリアと想定することができます

シジュウカラの平均移動分散距離

めぐろいきもの气象台 2018 年 1 月～3 月の記録

いきもの	観察日	観測地・観察のようす
ウグイス	1 月 14 日	自宅庭にて。メジロと一緒にみかんを食べていました(中町 2 丁目自然通信員)
ツミ	1 月 23 日	昼間、雪が積もっている庭の柿の木に止まっていた(上目黒 5 丁目自然通信員)
カモ類	2 月 14 日	東大駒場キャンパスの池にて。40 羽くらい(駒場 4 丁目自然通信員)
ゴマダラチョウ	2 月 18 日	中目黒公園のヤード脇のエノキの大木。根元の落ち葉の中で幼虫 1 頭が越冬(自然通信員)
ヒキガエル	3 月 1 日	春のお客さん。庭で鳴いていました。池の中で 2 匹が重なっていました(自然通信員)

★いきもの調査は、無理をして探しに出かけなくても、日ごろの生活の中で出会ったものをお知らせいただいております

現在調査中のいきものたち

ツバメ・テントウムシの初見日

サクラの開花日

タヌキ

蝶 タンポポ

…など

お知らせいただく項目

- いつ
- どこで
- なにを見た
- ようす・メッセージ

- いつも観察情報をありがとうございます。いただいた情報は、貴重な記録としてパソコンに集約しております。紙面の都合上全部をご紹介できないことをお許しください。
- 調べるいきものたちのパンフレットをご希望の方は、係までお申し込みください。
- いただいた写真等は、通信員だよりのほか区発行の印刷物に使用することがありますのでご了承ください。
- 通信員をおやめになりたいときや、転居のとき、お名前の誤りなどはお電話等でご一報ください。
- 観察情報や写真は郵便・FAX・Eメール(sizen@city.meguro.tokyo.jp)でみどりと公園課までお送りください。お写真をいただくと、種類を見分けるのに役立ちます。
- 通信員だよりはホームページからダウンロードできます。発行時にはメールでお知らせすることもできます。通信員だよりの郵送が不要の方は、上記のメールでご連絡ください。



シジュウカラ

空のいきもの発見隊 速報！

2018年3月11日
都立林試の森公園にて

公益財団法人 日本野鳥の会 箱田敦只氏、堀本理華氏の指導で開催しました。25名の方々にご参加いただき、ヒヨドリやメジロ、シロハラなど合計で12種の野鳥を発見しました！

バードウォッチングのコツは音をよくきくこと！



ものさし鳥の大きさを
覚えましょう！



双眼鏡の練習中♪



ハクセキレイ

「バードウォッチングで一番のコツは目で見るよりも音をよくきくことです。耳を澄ませ、鳥の気配を感じ、それから目で確認して双眼鏡でしっかり観察します。」と先生。野鳥を見分けるときの大きさの基準になる“ものさし鳥”を学んだり、双眼鏡の使い方を練習したりしました。

ものさし鳥：スズメ約15cm、ムクドリ約25cm、キジバト約30cm、カラス約50cmがベースです。身近でよく見る鳥と比べておおまかに大きさの見当をつけます。(裏面「いきものたちを見わける」を参照)

鳥を発見！



あの木にシロハラが
とまっているよ！



シロハラ



鳥のフンにはなにが
はいているかな？

満開の河津桜に
メジロがいっぱい！



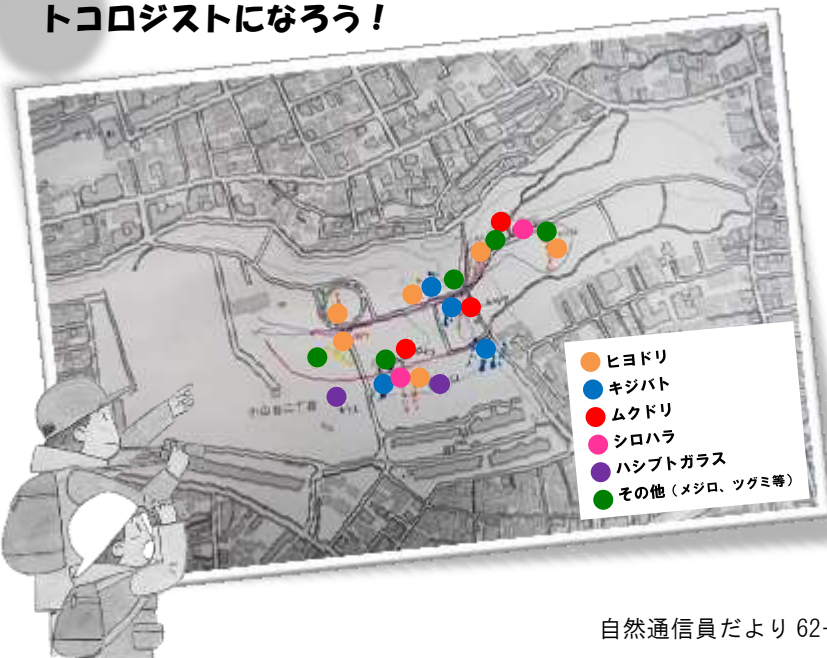
メジロ



発見した野鳥

ハクセキレイ(1羽) ヒヨドリ(24羽) ツグミ(1羽)
カワウ(2羽)(上空通過) ハシブトガラス(3羽) シロハラ(2羽)
ワカケホンセイインコ(4羽) キジバト(4羽) ウグイス(1羽)
メジロ(10羽) ムクドリ(5羽) シジュウカラ(1羽)

トコロジストになろう！



「いきものを観察したら“いきもの地図”を作ってみましょう。いきもの地図を作ったら、みんなで発表しあうのも良いですね。本日の発見隊をきっかけに、皆さんにも“トコロジスト”になってもらいたいと思います。」と先生。左の写真は、今回の発見隊で観察した野鳥をマーキングした“いきもの地図”です。

いきもの地図：民家や細い道まで細かく照合できるような5000分の1や2000分の1の縮尺の地図を使い、いきものが実際にいた場所を記録します。

トコロジスト：『自分の場所【トコロ】の専門家【ジスト】』のことで、近所の川や公園など身近な場所で自然の観察や記録を行います。鳥や虫など身近にいるいきものに愛着が湧いてきますし、地域への愛着に繋がります。

いきものたちを見わける

(出典:「いきもの气象台観察ノート(2012年3月 目黒区)」)

自然通信員・季節のスケッチ

いきものたちを見わける

いきものたちはいろいろな方法で「自己紹介」をしています
ここにあるヒントを参考にいきものの名前を調べてみましょう



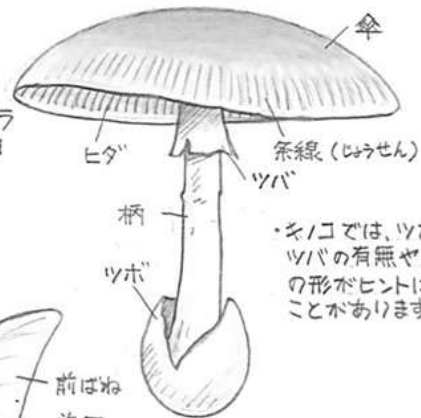
シジュウカラ



ホオジロ

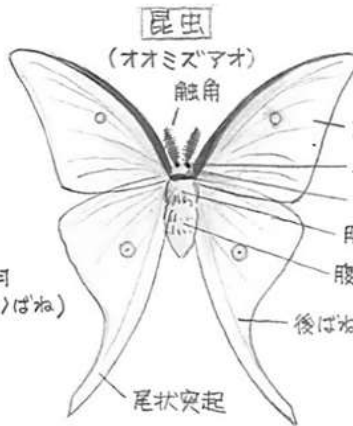
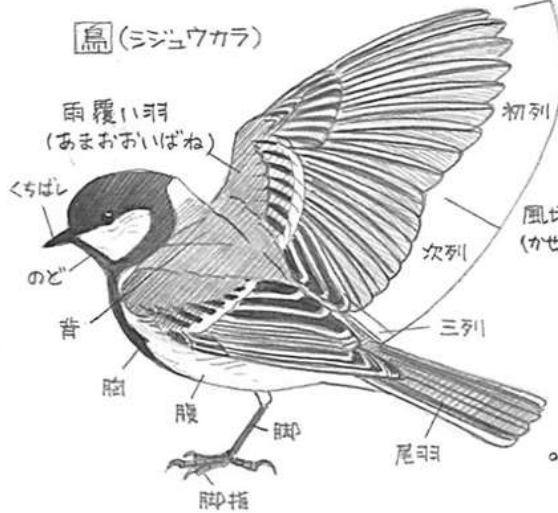
・ホオジロもシジュウカラ
ちど「うも」ほおが白
い鳥
(ホオジロは目黒区
では少ない鳥)

キノコ (ツルタケダマシ)



・キノコでは、ツボや
ツバの有無やひだ
の形がヒントになる
ことがあります

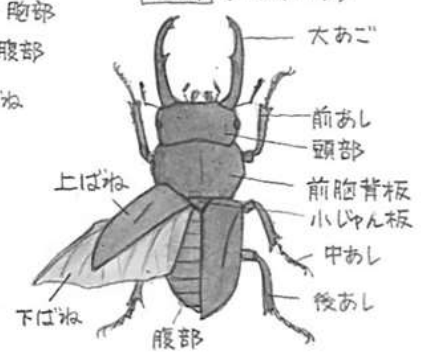
鳥 (シジュウカラ)



昆虫 (オオミズマオ)

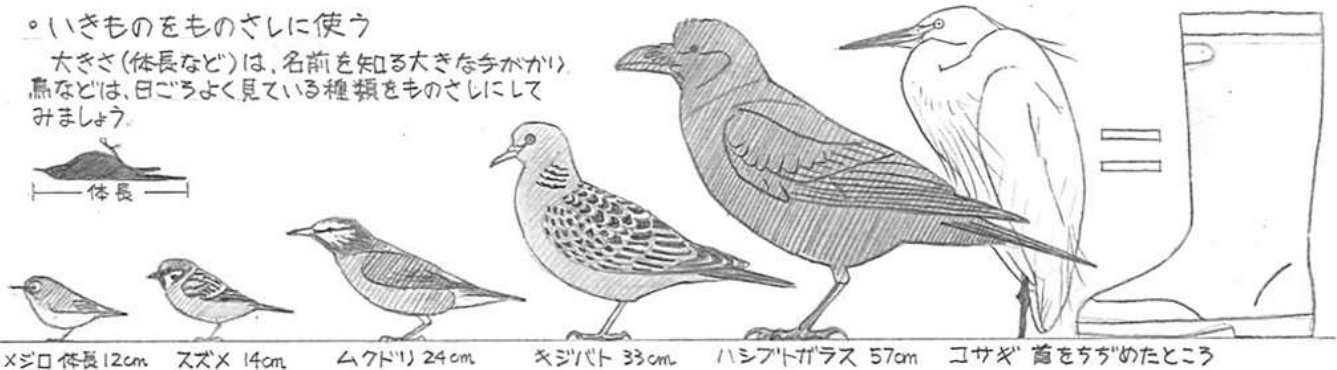
・からだの呼び方を知る

昆虫 (コクワガタ)

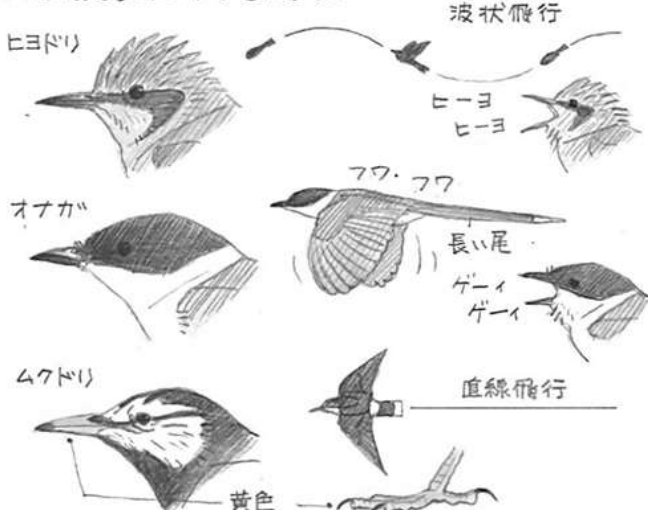


いきものをものさしに使う

大きさ(体長など)は、名前を知る大きな手がかり
鳥などは、日ごろよく見ている種類をものさしにして
みましょう



似たもののどうしを比べる



・体の特徴のほかに、声や歩き方や飛んだりする動作も
観察してみましょう

スケッチもしてみる

たとえば、植物の特徴は写真で撮ることは難しいもの。
花や葉をフィールドノートに描いて種類を見分ける手が
かりにしましょう

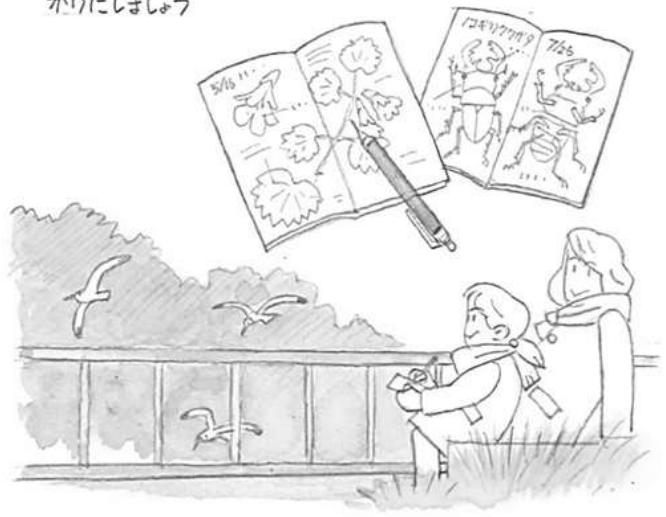


イラスト: 水谷高英